

I 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価及び課題

[学習指導] 基礎的・基本的な学力を定着させ、学力の伸長を目指す学習指導を行う。

- ア) office365 チームスの活用は98%であるが、フォームスを活用した授業の振り返りや意見収集等の活用は54%にとどまっている。
- イ) CYOD の活用を推進しているが、生徒自身のPC技能の向上が課題となっていることもあり、CYOD の活用は学校行事等にとどまっている。
- ウ) ルーブリックを活用した授業展開を実施している。教科ルーブリック、単元ルーブリックの作成まではできているが、毎時のルーブリック提示は限られた教科となっている。また、毎授業でどのように活用するかは各教科で検討中である。
- エ) AL 型授業の研修を実施し、思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫を行っているが、基礎的知識の獲得に時間をかけているのが現状である。
- オ) 観点別評価は各教科とも研修を実施し、指導と評価の一体化を目指している。個人の伸長度や努力を評価し、単位修得に繋げている。
- カ) 少人数授業の利点を生かしてきめ細かな授業展開を心がけ単位修得へつなげている。
- キ) 特別な支援を必要とする生徒に対しては合理的配慮を行い、学習支援をしている。
- ク) 実生活、将来につながる授業展開や反転学習等の実践によって学力向上を目指しているか、一部の授業にとどまっている。
- コ) グループ制の相互授業参観を実施し、生徒の学力向上策を協議できている。
- サ) 図書館利用は増加したが、生徒の読書量を増加の検証はできていない。
- シ) 基礎学力保障のための寺子屋補習(数学)が功を奏している。

[進路指導] 生徒の進路意識を入学時から醸成し、卒業時の進路実現に結び付ける。

- ア) キャリア教育年間指導計画に基づき、計画的に指導を行えているが、生徒の実情に合わせて効果を出すために計画の組み換えが必要な時期となっている。
- イ) 進路意識調査を活用し、進路未定者の洗い出しとその原因を分析、一人ひとりの意識を高めることで、年次が進むごとに進路意識が高くなっている。また、同一年のなかでも意識に変化がみられる。一方で職種や業種などについての的確な知識を持たせることにはまだ課題がある。
- ウ) 卒業年次の進路担当者と進路指導部との連携は十分にできているが、低年次と進路指導部との連携は浅い。キャリアパスポート等を活用して生徒意識の向上を図っているが、副担任と連携で重層的な指導は一部にとどまっている。
- エ) 進路指導部による就職に関する統括は十分にできている。特に、特別な支援が必要な事例や外国籍生徒の支援については特筆できる実績がある。一方、進学指導の統括に関しては発展途上である。
- オ) 進路指導部は就職、進学等に関する最新の情報の提供はできている。
- カ) 2年次で模擬試験の実施分析を行った。また、オープンキャンパス等参加を組織的に行うことで進路意識の向上を図った。3年次はチーム分けをした夏季講習を実施し意欲を高めた。
- キ) 自立支援チームや外部機関等と連携は定着し、効果的な進路指導に繋がられている。
- ク) 講習、補習は各教科が適宜行っているが、個別指導も多い。夏季講習では特に日本語指導を重点化できた。
- ケ) 進路に関する推薦については通信制と定時制の情報共有で適正に行えた。

[生活指導] 社会生活で自立できるための基礎である人権意識及び社会規範を身に付けさせる。

- ア) 生徒同士が人権を認め合う雰囲気は十分にある。
- イ) いじめはなかった。
- ウ) 教職員全員が指導・支援の際の表現方法には最大限の注意を払っている。誤解を生むことのない指導・支援を継続する。
- エ) 卒業年次生は社会の一員としての基礎を身に付けられているが、低年次生にはさらに指導・支援が必要な時がある。
- オ) 授業規律には大きな課題はないが、社会で通用する礼儀や規律、良識、表現方法等は継続指導・支援が必要である。
- カ) グループエンカウンター事業やセーフティ教室等を通してソーシャルスキルや危機回避能力を育み、社会の一員であることを自覚させることを継続する。
- キ) 地域と連携した防災訓練はでき、地域からの評価も得られた。実践的な避難訓練は充実させたい。
- ク) 多面的な指導・支援の工夫を行う。

ケ) 自立支援チームや外部機関を活用することで、個に応じた支援は可能な限り実施しているが、社会福祉等へのつなげ方等がさらに課題として出てきている。

[特別活動・部活動] 生徒主体の活動を促進して成功体験を積み重ねさせ、自己肯定感の醸成に努める。

ア) 三部合同の特別活動は文化祭などで実施したが、体育祭は部ごと開催とした。連帯感が見られた。

イ) 生徒会を中心とした活動が見られるようになった。生徒会企画も工夫が見られた。

ウ) 部活動加入率は低迷している。一方、5つの部活動が全国大会に出場したほか、都大会や高文連の大会出場で表彰されるなど、達成感を経験できた部活動も多い。

エ) 地域との連携を図る部活動はこれからの課題であるが、可能性は十分にある。

[健康づくり] 生徒自身が主体的に心身の健康を管理できる資質・能力を育成する。

ア) 感染症対策の徹底はでき、授業や行事等への影響は出なかった。

イ) 保健日より電子配信をすることで、生徒の意識向上に寄与した。

ウ) トライアル喫食を設けたが、給食喫食できる生徒の範囲を広げることは課題として残った。

エ) 生涯にわたる体力の維持・向上につながる運動方法を意識した体育授業を実施した。部活動を通じた意識向上には、部活動参加率を高めることが課題として残った。

オ) 自立支援チームや学校精神科医等と連携した教育相談体制は十二分に実施できている。

カ) 希死念慮を持つ生徒対応は外部連携も含めて丁寧を実施し、困難事例にも対応できた。

キ) 通級指導の体制はできた。

[募集・広報活動（地域交流等）] 本校の教育活動の魅力を広く紹介し、応募倍率の上昇を目指す。

ア) リニューアルしたHPの内容充実を継続している。学校見学のきっかけとなっている。入学選抜の応募で1倍を達成した。

イ) 学校案内の刷新は今後の課題として継続する。教育関係者向けの説明会を通信制と共同で実施した。

ウ) 校内外の掲示物をユニバーサル・デザインの視点での充実は継続課題である。

エ) 地域一斉清掃、合同防災訓練で地域行事への参加ができ、地域との相互理解の一助となった。

[学校経営・組織体制] 働き方改革を推進しながら、生徒の伸長を目指した教育活動を組織的に展開する。

ア) マネジメントサイクルに基づいた効率的な学校運営を学校運営連絡協議会で報告した。教職員のライフ・ワーク・バランスはおおむねできている。

イ) ルーブリックの作成で指導と評価の一体化を推進しているが、観点別評価の検証を通して、精度を上げていく。

ウ) 外部人材を活用した多様な生徒へのインクルーシブ教育はさらに継続する。

エ) 教員が生徒・保護者等と面談する時間、支援する時間を増加は常に意識し、実施しているが、さらに業務の効率化は必要である。

オ) 教育公務員としての責任を果たし、所属組織体の業務正確化・効率化はさらに推進する。

カ) 学校行事の配置等を工夫、見直しを行い、次年度の授業時間の確保をした。

(2) 重点目標と方策

令和4年度 重点目標	具体的目標値		主な方策	(目安)	成果
① 学習意欲の 継続、学力 定着への支 援	学力スタンダードの推進 基礎学力が身に付く授業 学校評価 肯定的評価 (80)%⇒ 73.3% (前年度実績88%)		ICT機器(OFFICE365機能)を活用した授業者	(95)%	92%
			AL型授業の拡大 話し合いや意見を言うことが増える 学校評価	(75)%	62.0%
			相互授業参観	参観・被参観 一人各2回以上	2回以上
			興味関心を喚起する授業による未履修者の減少 在籍者に占める未履修がある者の割合	(30)%以下	45%
	1年次生、2年次生の標 準単位以上修得者率 対5/1在籍 (76)⇒ 71% (前年度実績75.7%) 1年次19単位以上 2年次38単位以上		三者面談による家庭学習環境の改善	学期に1回以上	1回以上
			基本的な生活習慣の確立・授業規律の遵守 学校評価	生活習慣(80)%	84.1%
			呼び出し補習による学力の補完	全教科	全教科
			資格(英検・漢検・簿記等)取得の奨励 合格者数	延()人	延26名
			学則による退学者の減少	(0)人	0人
② 進路希望実 現への支援	進路決定率 (85)%⇒82.4% (前年度実績87.6%)		進路用講習・補習の開講	(30)講座	30講座
			進路の手引きを活用するHRの実施	(10)回	5回
			就職特別講座受講者の増加	延(300)人	延371人
			進路目標別履修指導の展開	展開	展開
	進路目標決定状況 2年次末 (87)%⇒ 79% (前年度実績86%)		進路情報等の掲示・案内	(週2回以上)	週3回
			進路分野別ガイダンスの実施	年(5)回	年5回
③ 主体的自律 的な学校生 活の推進と 安全で安心 な学習環境 の維持	出席率年間平均 (86)%⇒ 80.1% (前年度実績86.9%)		学習状況の面談(二者、三者)	学期に1回以上	学期1回
			保護者会を通じた状況報告	(1)回以上	0回
	学校生活の充実 学校評価 肯定的評価 (80)%⇒ 81.2% (前年度実績83.5%)		行事(文化祭・体育祭) 参加状況	(80)%	82%
			部活動の活性化 加入率 活動実績(運動部全国出場、都定通芸術祭1位)	(40)%	35%
			委員会活動の活性化(文化祭や日常での展示報告)	学期1回	学期1回
	防災意識の向上 訓練参加率(80)%⇒73% (前年度実績78%)		外部と連携した防災訓練(講話・避難訓練)の実施	(4)回	4回
			防災教育の成果発表 文化祭での報告	報告	報告
	健全育 成指導 状況	体罰 0 0 いじめ 0 0 学校事故 0 0	健全育成講演会(セーフティ教室等)	(3)回	2回
			研修会(いじめ、体罰、健全育成、特別支援教育)	(12)回	12回
			教育相談委員会の活性化 月例会	(12)回	3回
校内外巡回 定期実施			定期的実施	定期的	
		地域行事への参加(生徒・教職員)	生徒100名	120名	
④ 広報活動の 積極的・組 織的な展開	説明会参加 (280)組⇒ 488組 (前年度実績257組)		資料を改善した説明会等の校内実施	(15)回以上	16回
			外部説明会への参加	(10)回以上	14回
			中学校・関係機関への広報(郵送・FAX等を含む)	(400)ヶ所 &開拓	459か所
			教育活動のHPでの紹介 更新回数	(70)回	70回
⑤ 適正で効果 的な学校運 営	マネジメントサイクル に基づく学校運営		適正な予算執行と効果的な予算編成	執行・編成	
			学年会、分掌部会との情報の共有	毎週	毎週
			学年目標、分掌目標の設定と実施評価	設定・評価	
			学校運営連絡協議会へのPDCAに基づく報告	(3)回	3回